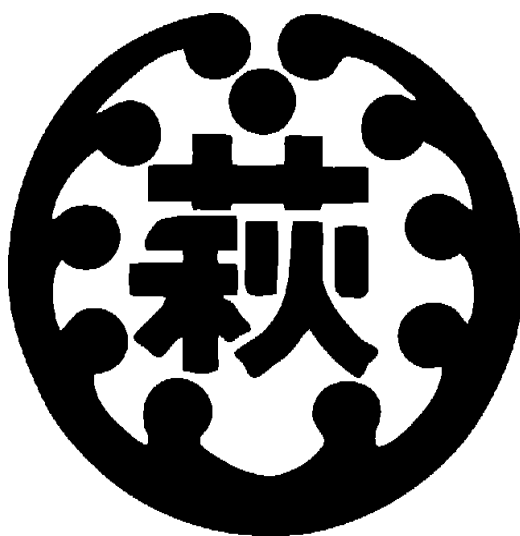


令和5年度

学校評価報告書



浜松市立萩丘小学校

1 学校教育目標と評価項目

(1) 学校教育目標

「いい顔 いい友 いい学校 ～かかわりの中で自分を磨く子の育成～」

(2) 付けたい力

◎かかわる力 (人間関係形成・社会形成能力)	やりぬく力 (自己理解・自己管理能力)	めあてをもち学ぶ力 (課題対応能力)	なりたい自分を考える力 (キャリアプランニング能力)
<ul style="list-style-type: none"> ○考えや思いを発信する ○相手の言葉を受け止める ○自他を大切にしておかかわる ○互いの意見を聞き、トラブルを自分たちで解決する ○自分の役割を果たす 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身を知る ○物事を前向きにとらえる ○最後まであきらめない ○自分のことを律する ○正と思ったことは行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ目的をもつ ○課題を自分で見付ける ○協働を通して考えを広げ、深める ○自分の学びを修正する 	<ul style="list-style-type: none"> ○なりたい自分を思い描く ○実現のための計画を立てる ○学習・行事と自分の将来とのつながりを意識して取り組む

これら4つの力は、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育成することをねらいとして、第3次浜松市教育総合計画でも進められているキャリア教育を軸として設定した。それぞれの力を付けるために17項目の具体的な取り組みを設定し、各教育活動のねらいと関連付けて指導を行った。

(3) 評価項目

① 子供は、安心して楽しく学校へ通っている。
② 子供は、友達を大切にしてお、仲良く生活している。
③ 子供は、自分の決めたことを最後までやりぬこうとしている。
④ 子供は、めあてをもって学習に取り組んでいる。
⑤ 子供は、夢や目標をもっている。
⑥ 子供は、学校で学習したことを身に付けている。
⑦ 子供は、自分から進んであいさつをしている。
⑧ 学校は、教育活動や子供の様子を分かりやすく伝えている。
⑨ コミュニティ・スクールの取り組みは、学校と家庭、地域のつながりを深め、子供たちの豊かな成長を支えている。

※ (3) 評価項目の評価を11月にアンケートで行い、児童532名・保護者551名・職員36名から回答を得られた。以降の資料は「そう思う」「大体そう思う」の肯定的な評価を合わせた割合(%)を示している。

2 自己評価

① 「かかわる力」との関連

<アンケート結果>

評価項目	児童	保護者	職員
① 子供は、安心して楽しく学校へ通っている。	94	95	100
② 子供は、友達を大切にして、仲良く生活している。	96	96	97
⑦ 子供は、自分から進んであいさつをしている。	84	74	81
⑨ コミュニティ・スクールの取り組みは、学校と家庭、地域のつながりを深め、子供たちの豊かな成長を支えている。	93	82	100

<アンケート調査の考察>

「かかわる力」に関連する評価項目は、どれも割合が高いことが分かる。

特に②「子供は、友達を大切にして、仲良く生活している。」では、児童・保護者・職員の全てにおいて95%以上の高い結果になっている。これは、友達とのかかわりを重視した授業研究や、各行事において友達のよさに目を向けたり、友達がいるからこそ成功につながる体験を繰り返したりしてきた結果であると考えられる。また、毎月「ピアの日」を設定し、学級や学年でピアサポート活動を行っている。ピアサポート活動を通して、友達のよさや自分との違いに気付くようになり、友達を大切にする意識を高めるようにしている。これらが②の友達を大切にすることや①の安心して学校へ通っている項目の割合を高めることにつながっていると思われる。

⑦「子供は、自分から進んであいさつをしている。」では、他の項目と比べて若干低い結果となっている。朝や下校時には「あいさつ」をしても、日中のお客様へのあいさつや、登下校中の見守り隊の方へのあいさつや旗振りの方へのあいさつに課題が見られた。来年度も引き続き、毎月設定している生活のめあてに取り入れ、指導を継続して行いたい。

⑨「コミュニティ・スクールの取り組み」は、児童や職員の割合が高いことから、教育活動を充実させてくれていることを教師も児童も実感していることが分かる。外部講師との連絡・調整を進めたり、授業のサポートのための保護者ボランティアを募集したりと、児童の教育活動が大変充実していることに感謝している。保護者の割合が82%であり、児童・職員と比べて低いが、令和3年度の調査では73%、4年度は79%であったことから、コミュニティ・スクールの活動の周知は進んでいることが分かった。コミュニティ・スクール便りや学校便りで発信する回数を増やしたことが、成果として表れていると考えられる。

調査から考えられる強み

- ・ 職員が学校教育目標と「付けたい4つの力」を理解し、同じ方向を向いて指導している。そのため、児童もかかわる力を伸ばしてきている。
- ・ コミュニティ・スクールの取り組みが学習を大変充実させている。
- ・ 生徒指導へチームで取り組む体制が整っている。また、職員間の相談しやすい雰囲気があり、報告・連絡・相談の体制が整っている。

調査から考えられる弱み

- ・ 日中のお客様へのあいさつと登下校時のあいさつに課題が見られる。
- ・ コミュニティ・スクールの活動が少しずつ周知されてきているが、児童・職員と保護者の間に若干の認識の差が見られる。

② 「やりぬく力」との関連

<アンケート結果>

評価項目	児童	保護者	職員
③ 子供は、自分の決めたことを最後までやりぬこうとしている。	87	84	92

<アンケート調査の考察>

本調査は11月末に行ったが、7月にも同様のアンケートを行っている。7月のアンケートと比較して、職員は7%割合が高くなっている。これは、2学期に運動会と学習発表会という大きな行事が行われたことに起因すると思われる。それぞれの行事の練習が始まる前に、どの学年でも「その活動を通してどんな姿になってほしいのか」を学年全体に話す機会を設けた。そして、それをもとに個人の目標を立てたり、毎時間の練習のめあてを立てたりする活動を行った。このように、大きな行事で特に意識付けられたことから、割合が高くなったと考えられる。また、活動後に自分の目標を振り返る機会を、発達段階に応じて設けた。こうすることによって、児童が自分の決めたことを最後まで頑張ろうとする意識の育ちにつながったと考えられる。

調査から考えられる強み

- ・ 職員が「付けたい4つの力」を理解するとともに、行事を節目として、「めあて→取組→振り返り」という流れの指導を、どの学年でも行うことができた。

③ 「めあてをもち学ぶ力」との関連

<アンケート結果>

評価項目	児童	保護者	職員
④ 子供は、めあてをもって学習に取り組んでいる。	89	72	94
⑥ 子供は、学校で学習したことを身に付けている。	91	89	92

<アンケート調査の考察>

④「子供は、めあてをもって学習に取り組んでいる。」では、授業の始めに必ずめあてをもたせ、その授業で何ができるようになるれば良いのか、何が分かれば良いのかを明確にすることを、継続して行ってきた。行事の前にも学年全体のめあてを示したり、個人のめあてを立てさせたりすることで、長期的なめあてと短期的なめあてを繰り返しもたせてきた。児童が「めあてをもって学習に取り組む」経験を繰り返してきたことで、児童自身が学び方を身に付けることができるようになったと考えられる。

⑥「子供は、学校で学習したことを身に付けている。」は、7月の調査と比べて職員の割合が10%上がった。職員が個に応じた指導を意識し、児童に分かる授業をすることを心掛けていることが分かる。

調査から考えられる強み

- ・ 職員が、児童が分かる・できる授業づくりを工夫しようとしている。
- ・ 職員が個に応じた指導を心掛けている。その際、チームで対応をすることができている。

調査から考えられる弱み

- ・ 児童が自分自身のめあてをもち学習に取り組んでいることが、保護者まで伝わっていない。保護者アンケートから、家庭学習の取り組み方に課題が見られることが考えられる。

④ 「なりたい自分を考える力」との関連

<アンケート結果>

評価項目	児童	保護者	職員
⑤ 子供は、夢や目標をもっている。	86	75	83

<アンケート調査の考察>

⑤「子供は、夢や目標をもっている。」は、前ページの「めあてをもち学ぶ力」でも述べたように、授業や行事で繰り返し目標をもたせることを行ってきた。ここで言う「夢や目標」は、将来の職業だけではなく、「こんなことをしたい」「こんな人になりたい」という内容を含んでいる。どの学年でも、年度初めに各学級でどのようなクラスにしたいかを話し合い、途中で振り返る活動を設けてきた。また、キャリアパスポートを活用して1年間やこれまでの小学校生活を振り返らせ、これからの自分について考える時間も設けている。これらの活動が「めあてをもち学ぶ力」の向上に役立っていると思われる。

しかし、職員の割合が他項目と比べて低かった。目標をもたせることはできていても、子供が夢をもつことまで指導できていないと感じている職員がいる。

調査から考えられる強み

- ・ 職員が、付けたい力を念頭に置き、行事や活動の前に目標をもつ時間をどの学年も設けることができた。

調査から考えられる弱み

- ・ 目標をもたせる活動を行ってきたが、児童が夢をもつことにまでつなげられていない。

3 何でも相談カード（いじめ対応）について

萩丘小学校 生活アンケート(令和3年度～5年度)

		1 授業は、楽しい ですか？		2 友達と楽しく生活 できていますか？		3 学校生活は楽しい ですか？	
年度	時期	楽しい	楽しくない	楽しい	楽しくない	楽しい	楽しくない
3年度	1学期	95.7%	4.3%	97.3%	2.7%	97.2%	2.8%
	2学期	97.1%	2.9%	97.4%	2.6%	98.5%	1.5%
	3学期	98.5%	1.5%	97.7%	2.3%	98.8%	1.2%
4年度	1学期	95.1%	4.9%	97.4%	2.6%	97.8%	2.2%
	2学期	95.1%	4.9%	97.4%	2.6%	97.8%	2.2%
	3学期	97.5%	2.5%	98.8%	1.2%	98.8%	1.2%
5年度	1学期	95.6%	4.4%	97.8%	2.2%	98.3%	1.7%
	2学期	96.7%	3.3%	97.6%	2.4%	97.5%	2.5%

1番目の「授業は楽しいですか？」は、「楽しい」、「どちらかという楽しい」を合わせた「楽しい」が96.7%になっている。「どちらかという楽しくない」、「楽しくない」を合わせた「楽しくない」は、3.3%だった。1学期よりも、高い結果になった。

2番目の「友達と楽しく生活できていますか？」は、「楽しい」が97.6%、「楽しくない」が2.4%でした。こちらは1学期とほぼ同じ結果だった。低学年では、友達に嫌なことをされること、高学年では、特定の人との人間関係を苦しめていることが理由になっている。

3番目の「学校生活は楽しいですか？」は、「楽しい」が97.5%、「楽しくない」が2.5%でした。こちらは、1学期よりもやや低い結果になった。アンケートでは、学習や友達関係での悩みが多いことが分かった。

萩丘小学校のいじめ（令和3年度～5年度）

年度	時期	訴え 人数	いじめ 総数	仲間 はずれ	無視	かげ口	からかい	悪口	たたか れる	けられる	ぶつかっ てくる	ものを とられる	ものを こわされる
3年度	1学期	94	155	10	11	9	15	34	28	23	13	8	4
	2学期	78	104	9	5	9	14	18	18	8	11	10	2
	3学期	61	104	6	2	8	14	16	24	11	15	6	2
4年度	1学期	94	159	14	9	6	14	31	36	14	13	20	2
	2学期	77	135	13	5	5	23	23	24	17	13	7	5
	3学期	67	109	11	4	7	13	23	18	8	12	9	4
5年度	1学期	105	142	13	14	0	23	34	21	10	15	9	3
	2学期	100	161	8	5	12	22	39	23	11	16	16	9

1学期と比べると、いじめを訴えた人数が減っているが、訴えたいじめの数は増えている。内容を見ると、「悪口」が多く、次に「たたかれる」と「からかい」が続く。特に、1学期0件だった「かげ口」は大きく増えている。

そして、以下のことを全校に伝えた。

「悪口を言った人やたたいた人、からかった人は何とも思っていなくても、悪口を言われた人、たたかれた人、からかわれた人はとてもつらい思いをしています。もし、いじめを受けたり見たりしたら、先生や家の人に相談しましょう。また、相手に腹を立てることがあっても、すぐに暴力をふるうのではなく、まず自分の思いを相手に伝えるようにしましょう。思いを言葉で伝え合うことで、互いに嫌な思いをしなくてもすむことは少なくありません。話し合って解決できるようになれば、いじめは少しずつ減っていくと思います。いじめは、相手を傷つけるだけでなく、いじめた本人も周りの人もみんな暗い気持ちにさせてしまいます。いじめは「しない、させない、見逃さない、いじめストップ」です。いじめをなくし、萩丘小学校の目標である「いい顔 いい友 いい学校」を実現していきましょう。」

4 学校関係者評価

2月19日（月）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告した。委員からは以下のような意見があった。

- ・ 学校を運営していく上で、要所を押さえてくれている。時代とともに、学校に求められることや環境が変わってきているが、それに対応してくれている。
- ・ やはり家庭教育が大事と感じた。学校と家庭・地域がチームになって子供を育てていきたいと思う。
- ・ 学校のいじめの数を公開するとともに、丁寧に対応してくれている。
- ・ 1年ごとに目標やねらいを変えていくのではなく、学校として大切にすることを自信をもって進めてほしい。

5 来年度に向けて

自己評価と学校関係者評価を基に、できていることは継続して行い、課題となる点について改善を図る。

- ・ 職員が学校教育目標と「付けたい4つの力」を理解し、同じ方向を向いて指導している。そのため、児童も力を付けてきている。しかし、付けたい力が児童や保護者に伝わっていないため、意識できていないことがあった。児童と保護者も意識できるようにグランドデザインを整えるとともに、各活動で意識付けられるように教育課程を編成する。
- ・ 行事を節目として、意図的な指導を行うことができた。
- ・ 職員がチームで生徒指導対応をするとともに、保護者や地域と連絡を取り合いながら指導を行っている。このことにより、個別の対応が機能している。生徒指導の体制も継続したい。
- ・ コミュニティ・スクールの取り組みは大変充実している。これを無理なく継続できるように、体制を整えたい。
- ・ 家庭との連携が重視されている。家庭学習は児童が自分のために学習するものであることを、職員で共通理解するとともに、保護者へ周知したい。
- ・ 「あいさつ」については、指導を継続していきたい。
- ・ 児童と教員と、保護者の間に認識の差がある項目があった。活動内容が伝わりやすい便りやブログを工夫したい。